

平成8年度第1回日本生物物理学会運営員会議事録

日時：1995年9月25日（月曜日）

場所：北海道大学 ファカルティハウス エンレイソウ

出席：宝谷会長、津田副会長、石渡副会長、葛西、垣谷、加茂、木下、桐野、郷（信）、郷（通）、豊島、日比野、美宅、宮本。

欠席者：垣谷、徳永、柳田。

宝谷会長より、議事次第に則り、会の開催が宣言された。

報告事項：

出席者が、シンポジウム等により遅れたため、議事次第の順序を変更して運営委員会を進行することになった。以下は、議事順序に則り、議事録を編纂する。

1 社団法人日業」機関誌の交換について了承し、96年1月より雑誌交換を行う予定である。「生物物理」は、97年1月より年12冊になるため、97年1月から日本化学会の方へ送付することになる。」との報告があった。それに伴い、以下の2点について、確認された。

1. 1 交換されている雑誌の取り扱いについて

葛西委員より、「交換されている雑誌は、現在、会長室に陳列されている。寄贈の本についても同様である。日本化学会では、図書館があり、そこに陳列されている。」との現状報告があった。宝谷会長より、「雑誌編集委員でもある美宅委員のところに資料として送る」との提案があった。

1. 2 書評について

葛西委員より、「寄贈される本の中には、書評をお願いされる場合もあるが、そこまではやる必要はない。会誌の談話室にタイトルと書評依頼が来ましたということ載せるにとどまっている。」との現状報告があった。

2. 96年度生物物理若手の会の会長について

宝谷会長より、「若手の会の会長が、大阪大学基礎工学部生物工学・D2の和沢さんとなった」と報告があった。安永委員より、「任期が一年であり、この生物物理学会で役員の交代が行、96年度年会準備状況について報告があった（資料1）。日程、開催場所、会場、形式について報告があった。以下の点に関して、議題とした。

3. 1 日程について

宮本委員より、「日程は、11月6日から9日の予定であるが、臨床研の構造生物学の国際シンポジウムが1996年11月5日から7日の予定で行われる。できるだけ重ならないようにすることが大切であるが、シンポジウムに使用している共用講堂が平日しか使用できないため、日程をずらすのが困難である」との報告があった。郷委員から、「NMR及びX線を使った日本の研究者のほとんどが集合する。学会委員等にも結晶学の人たちはいない。生物物理学会の将来を考えても、構造生物学の向かう方向は、運営委員会としては注意して行かねばならない。できるだけ日程的に重ならないようにすべきである。」との提案があり、確認された。宝谷会長より、「実際の開催の仕方について、年会担当の運営委員とつめるように」と確認された。

3. 2 年会シンポジウムについて

郷委員から「X線結晶学の人たちとの交流をより図るために、シンポジウムとして構造生物学の内容で行い、臨床研の構造生物学国驕B」との意見がでた。「NMRとして荒田さん、X線としては坂部さん、月原さん辺りにシンポジウムをお願いしてみてもどうか」との意見で賛同が得られた。宮本委員より「シンポジウムを運営委員会の方である程度企画してはどうか」という意見があり、あとで議題として討論する（議題6）こととなった。

3. 3 発表申し込みの仕方について

宮本委員の方から、「発表申し込みは、電子メールでも行えるようにし、デッドラインを電子メールによるものを遅くし、誘導をはかる。予稿原稿は、電子メールにするのは、時期尚早であるとの意見があり、郵送にすることにした。」との提案があった。郷委員から「キーワードの項も忘れないようにして欲しい」との要望があった。葛西委員から「予稿原稿と発表申し込みの時期をずらすことは、内容変更の可能性を増すのでできるだけ、時期的に同じようにするのがよい」との意見がでた。「受付番号を付けて返す方が整理の都合上良い」との意見がでた。また、「申し込みの際に、英文タイトルを付けてもらおうと、プログラムの英語版を作製することができ、WWWに情報を公開することもできるので有効である」との意見もでた（IApple:）。「申し込みに際し、会員であるかどうかをチェックし、会費を徴収する必要がある。」との意見がでた。「申し込みの際に、会員番号を書くか、振込用紙のコピーを付けるようにするべきである」との意見で賛同が得られた。

4. リアライズ社との広告契約の改訂状況

宮本委員から、エー・イー企画との契約改定案とリアライズ社との契約書案とが提示された（資料2）。リアライズ社との契約に支障がないように、エー・イー企画との契約書の変更が示されたが、郷委員の提案により、「来年、契約をし直さねばならないのなら、今年は、変更箇所だけを覚え書きという形で発効した

方がよい」との提案があり、その方針で進めることとなった。変更箇所は、第1条だけであるので、新しい第1条を覚え書きととして、エーイー企画の児島さんと契約することにした。津田委員から「リアライズ社との契約書は、リアライズ社に作ってもらうようにしている」との報告があった。できあがった報告書を取りあえず承認し、来年もう一度契約書を交わす際に議論することになった。リアライズ社の広告料金の取り分については、津田委員より「15%でなくて、10%でも良い」とリアライズ社からこまですが、その契約に含まれるのか、実費分はどうするのかなどその内容について再確認をとる必要がある。」事で同意した。

また、津田副会長の方から、「早く、リアライズ社と契約ができるようにして欲しい」との提案があり、宮本委員から新しい広告担当である木下委員の方に仕事を引き継ぐことになった。

桐野委員から「広告契約をリアライズ社に変更するつもりなのか」との質問があり、津田副会長から「リアライズ社の実力をはかりかねているので、しばらく2社で行く方針である」との説明があった。

議題：

1. 新運営委員の役割分担

宝谷会長より、役員の役割分担案（資料3）が提示された。各担当の長を決めないと、仕事が進まないの
で、長を決めることとなった。決定された委員は、以下の通りである。

会長：宝谷

副会長：津田、石渡（広告担当）

事業：葛西

賞選考委員：葛西（長）

会誌：石渡（長）、津田

年会：郷（信）（長）、宮本（実務）

外交：郷（信）

庶務：郷（通）（長）、日比野

会員、物理学会生体物理分科との連絡：垣谷

財政：桐野（長）、徳永

広告：木下（長）、豊島

ネットワーク・WWW担当：石（）：ちとが確認された。これまで、曾我部前委員が中心に行ってきた出版活動とのパイプ役を行う事も確認された。学会からの出版についての出版委員会について、曾我部、桐野、郷、宝谷の四名により、運営されていることも確認された。

美宅委員は、運営委員として会誌の係ではなく、編集長であることが確認された。

WWWのホームページの内容について確認があり、葛西委員から「会長時代に書いた、英文と邦文の学会の説明文があるのでそれをネットワーク・WWW担当委員の方に送る」事となった。

年会担当は、郷（信）委員を長として、どうオーガナイズするかを検討し、宮本委員は96年度開催に向け、実務を行うことが確認された。

2. 広告獲得と生物物理96年1月号刷り増し分の利用方法

津田副会長より「96年度1月号はImagingの特集であるので、300部刷り増しして、広告の可能性のある企業に配布することになった。約30－40万円の費用がかかるのでそれ以上に回収できるようにして欲しい」との報告があった。また、津田委員より「特集の時の方が広告が多い。多くの企業が広告している号を送ることによって、広告しようという気になる。」との（I8. ちあり、それを使ってコンタクトをとれたところに96年度1月号は送付する事になった。

津田委員より「96年1月号にもできるだけ多くの広告を載せた方がよい」との提案があり、10月一杯までは十分に間に合うので広告を取ることが確認され、宝谷会長より、木下委員に仕事の方向を確認した。

「広告が多いという意味では、予稿集は多く、いろいろな企業が広告を載せている。予稿集が余っているなら、予稿集をおくるのはどうか。」との意見があり、96年1月号の扱いと同様に、コンタクトのとれた企業に送付することになった。

木下委員から「広告原稿は、全てネガなのか。小さい企業では難しいはずであるが。」という質問があり、津田委員より「東アジアの時は、ネガでとお願いすると全てネガで送られてきた」との報告があり、基本的にネガでお願いすることで確認された。

3. WWWホームページ開設準備

宝谷会長より「学術情報センターから、WWWのホームページ開設の促進と援助」についての報告があった。ネットワーク担当である美宅委員と石渡委員が中心に進められることとなった。葛西委員が会長時代に作製した「生物物理学会」についての邦文と億表（B）への応募

加茂委員より、「今年は、市民講座という形で、北海道支部という事で予算申請を提出した。」との報告があった。郷委員より、「大きな学会、例えば、物理学会などでは、行うことになっている」との報告があった。豊島委員より、「今年は、通常の申し込みと同様に、10月末くらいの締め切りである」との報告があり、事業担当である葛西委員の方で検討することが確認された。

以下の点が追加議題として話し合われた。

5. 研究分野別専門委員会規定（案）について

郷（信）委員から研究分野別専門委員会規定（案）（資料4）が配布された。同時に、そのためのアンケートが回覧された。郷（信）委員から「規定は前回報告して、承認を受けた」との報告があった。石渡委員から「委員会ではなくて、委員では？」との提案があり、了承された。石渡副会長から、「特別に郷（信）委員を任命して、分野別専門委員をお願いする」事が提案され、了承された。

6. 来年のシンポジウムについて

運営委員会として動いた方がいいかどうかについての是非が確認された。郷委員より、ある程度運営委員会が案を出すべきであるとの提案があった。津田副会長 (I 俣) は「ポスターは増えているので、その点も考慮すべきである」との意見があった。郷委員より「シンポジウムをきちんとオーガナイズしたときには、参加者も増えている」との指摘もあった。葛西委員より「運営委員会 1 2 月の重要議題として考えるべきである。」との提案があり、それまでに各種意見を募り、1 2 月運営委員会の時に選択する形で議論することで同意された。

加茂委員から「学会誌 4 月号に、学会申し込みを行うので、その時までにシンポジウムのタイトル位が決まっているのがよい」との提案があり、了承された。

7. Protein Society について

郷委員により、タンパク質構造討論会で、理科大の次田さんから「アメリカの Protein Society が、アメリカ国内の Society から、World Wide な Society に変わろうとしている。今年は、ヨーロッパと共同で開催し、大成功を納めた。ついては、America 4, Europe 2, Asia 2 という割合で委員を出し合い、日本も含んだアジアを含めた国際的な Society にしたい。つきましては、生物物理学会もいかがですか？」という提示があったことが報告された。津田副会長より、「光生物でも同様の事がおきている。十数学会からなる光会、生物物理学会の三つくらいで、連絡会議にしてしまうのが割と有利な解決策である」との提案があった。宝谷会長より、「その方向で、外交担当である郷（信）委員に慎重な検討をお願いする」との提案があり、郷委員が了承し、「連絡会議」の方向で検討することとなった。

7. 1 2 月開催の運営委員会について

次回の運営委員会について、委員の都合を聞いて、1 2 月 2 日に、名古屋で第 2 回運営委員会を開くことが決まった。場所については、名古屋駅の近くという意見があり、庶務担当の郷（通）委員、日比野委員により、場所が手配されることとなった。